

# オートバイから自動車産業への経営史的研究 —ホンダ・ヤマハ・スズキを事例に—

Study of Business History from Motorcycle to Automobile Industry  
—A Case Study of Honda, Yamaha and Suzuki Motor Companies—

出水 力  
Tsutomu Demizu

## 著書

①『オートバイ・乗用車産業経営史』日本経済評論社 2002年刊の67-122頁および169-295頁は、助成に基づく論考である。

②「イミテーションからイノベーションへ—ヤマハを中心にホンダとのモーターサイクル技術が確立した1950年代」国際日本文化研究センター編『模倣と創造—情報文明のダイナミズム』勉誠出版 2002年12月刊

モーターサイクルの草創期におけるヤマハ、ホンダのドイツ車のコピーから習作を経て独創期にいたる過程を技術文明史として述べた。

③*Honda's Success Unique Technological Innovations* Unionpress 2003年3月

ホンダが浜松の町工場から今日の多国籍企業へ発展した過程を、時系列に沿い、生産技術と製品技術の展開を明らかにしたものである。創業から50年にわたるスパンを極めて実証的の跡付け、特に本田・藤沢の創業者トップから2代目の河島体制の意思決定が、今日の四輪企業としてアメリカに根を張ったことを、現地調査から指摘した。また、日本の企業文化を海外に広く知らしめることに意義があり、海外の同学の研究者からの予約も多い。大阪産業大学経営論集

①「ホンダの開発システムの変遷（Ⅰ）」2001年6月

②「ホンダの開発システムの変遷（Ⅱ）」2001年10月

③「ホンダの開発システムの変遷（Ⅲ）」2002年3月

④「トヨタグループとホンダの企業博物館」2002年6月

ここから下は、未刊の分です。

⑤「二輪産業をめぐる模倣と再創」（投稿済み）

日・欧・中を巡る二輪産業の技術形成を取り上げた。イミテーションからイノベーションへの過程と、日本のバイクを模倣した中国製バイクが引き起こした知的財産権の侵害について論及し、国境を越えた輸出が、模倣の最大の問題となったことを明らかにした。

⑥「戦後モーターサイクル産業に関するオーラルヒストリーの試み」（年内に投稿する）

日本のモーターサイクル産業は、軍需産業の解体から生まれたと言って過言でなく、草創期に関わった人たちの証言を記録することも、歴史資料として欠かせない仕事である。